



## 大腸CT検査

～大腸がんの早期発見が期待される検査～

日本では毎年10万人以上が大腸がん罹患し、その内の約3分の1の人が死亡しているというデータがあります。また、女性の部位別のがん死亡率でも1位、男性では3位になるほど身近な病気です。しかし、大腸がんは早期発見・早期治療により完治する可能性の高い病気でもあります。今月号は大腸がんの早期発見を可能にする検査についてご紹介させていただきます。

### 《大腸CT検査とは》

お尻からカテーテルを挿入し、そこから炭酸ガスを送気して大腸を拡張させます。その後、CT装置で腹部を仰向けとうつ伏せの状態撮影する検査です。

#### 特徴1 身体的負担が少ない検査

- ・大腸内視鏡検査のように内視鏡スコープを挿入する必要がありません。
- ・注腸X線検査のようにお尻からバリウムを注入する必要もなく、頻回の体位変換も必要ありません。
- ・検査時間も大腸内視鏡検査や注腸X線検査と比較すると短い(約15分で終了)検査です。

#### 特徴2 CT検査の強み

- ・腸管が細くて、内視鏡が通れない場所でも、大腸CT検査では問題なく映すことができます。
- ・CT検査ですので、通常のCT検査と同じように他の腹部臓器の診断も行うことが可能です。

#### 特徴3 仮想大腸内視鏡

注腸X線検査のような画像(図1)や大腸内視鏡のような画像(図2)の撮影が可能です。3次元的に大腸を観察できるため、大腸全体像や病変の形状を正確に把握できます。

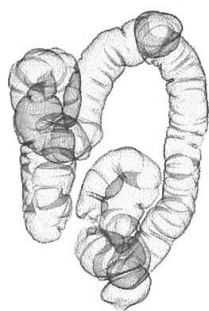


図1 注腸X線類似画像

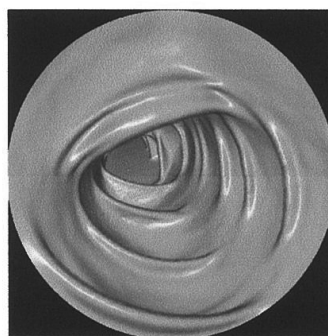


図2 大腸内視鏡類似画像

※今回は大腸CT検査の紹介を行うにあたり、大腸内視鏡検査と注腸X線検査との比較を用いて行いましたが、それぞれの検査に長所・短所が存在します。患者様の病状やご希望に添った最適な検査のご提案をさせていただきます。大腸の病気がご心配な方は内科外来までご相談ください。